

令和5年度 第3回 伊勢市障害者施策推進協議会（自立支援部会） 結果概要

開催日時	令和5年10月12日（木曜）18時30分～20時30分
開催場所	伊勢市福祉総合支援センターよりそい会議室1
出席委員	山本 明伸 部会長、青木 哲也 委員、竹澤 尚美 委員、 中村 和人 委員（※Zoomによる参加）、中村 智士 委員、 光山 隆善 委員、工藤 壮登 委員、徳田 真宏 委員、浦田 宗昭 委員、 森 夏代 委員、金子 直由 委員
欠席委員	川口 幸生 委員、岡田 まり 委員
事務局	高齢・障がい福祉課長、障がい福祉係長、職員1名 こども発達支援室 副参事、学校教育課 主幹 基幹相談支援センター職員1名、 地域相談支援センター長2名
傍聴者	3名

協議事項

（1）第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画について

- ・事務局より、計画案の最終確認

各重点テーマでの協議結果を以下のとおり計画に反映していることを説明。

- ・地域生活支援拠点テーマ

地域生活支援拠点等の整備、施設入所者の地域生活への移行、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

- ・就労支援テーマ

福祉施設から一般就労への移行、短時間雇用について

- ・こどもテーマ

関係機関等との連携、保護者支援、支援関係者の役割を示したハンドブックの作成、ティーチャートレーニングの実施体制の整備、パーソナルファイルの普及と活用

- ・医療的ケア児者支援テーマ

緊急時の対応、市内での研修実施、関係機関での継続した協議、医療的ケア児等コーディネーター

- ・相談支援ネットワークグループ

三層構造の浸透および理解、支援体制の強化

- ・人材確保・養成テーマ

事例検討、情報共有、サービス事業所の連携体制の構築、ビジネスパーク伊勢、ボランティア体験の推進、市単独の研修実施、事業者同士の交流の場

重点的に取り組む事項

- ・相談支援体制の充実・強化

- ・地域生活支援拠点の機能の充実
- ・就労選択支援についての説明

(委員からの意見等)

○地域生活支援拠点について

- ・障がい福祉計画の実績については、詳細を公表したほうがいいのではないか。
- ・昔、市外で一人暮らしの体験ができる仕組みがあったが、今はないのか。
→三重県の事業で行っていた。現在は行っていない。ただ、ニーズはある。
- ・高齢分野との連携体制が重要。
- ・施設入居者で介護保険サービスへ移行する方について、現状は、計画相談と調整をし高齢者施設への移行を考えている。地域移行については、共同生活援助を利用しがちだが、入所施設からの移行者より地域で課題があるケースのほうが優先的な利用となるため進めにくい。

○就労支援について

- ・就労移行支援事業所の周知については、対象者だけでなく、関係機関へ重点的にしていくべき。
- ・就労移行支援事業所の理解・促進は利用者への理解も必要。
- ・発達支援というのはどのような意味での支援なのか。
→発達支援という表現については、グレーゾーンの方への支援や一般高校への周知等含めての表現である。
- ・関係機関の連携によっても理解が深まると思うので、「連携」というのも文面に入れてほしい。
- ・成果目標の方策について、書き方がわかりにくい。
→事務局で修正します。

○こどもについて

- ・児童発達支援センターの支援者支援というのもあるといい。
- ・サービス担当者会議等を通じて教育と連携が図れるといい。
- ・おぞら児童園のみが実施し、児童の地域支援の質の向上の役割を担うのではなく、伊勢市として体制をどうするのが問題。
- ・ティーチャーズトレーニングにより、とするのではなく、様々な支援機関が関わって支援スキルの向上に努めていると表記してほしい。
→ティーチャーズトレーニングの用語解説については、修正する。

○医療的ケア児者支援について

- ・医療的ケア児と限定しているが、高校生の医療的ケア児も、近年増えてきており、大人になるのを見越して「者」も含めたほうがいいのではないか。
- ・目標達成のための方策について、「防災」についての表記が見受けられないので、方策に盛り込んでほしい。
- ・「家族、本人に寄り添った支援を行っていく。」事を追記してほしい。

○人材確保・養成について

- ・人材育成については、安定した提供の体制を継続していくことが重要だということ

とを盛り込んでほしい。

- ・地域相談支援センターの相談員が長く配置できるような体制をとれるといい。
- ・3か所から1か所になるという話であったが、相談員同士の資質の向上になるといい。
- ・相談支援体制、地域課題等について協議を重ねていくことを盛り込んでほしい。
- ・相談支援センターについて3箇所から1箇所になるので、質や量、相談支援体制の変化についての記載が必要。

○ハラスメントについて

- ・事業所等、職員間でのハラスメントについて、職場環境の整備をどのように市が啓発・介入するのか疑問。
- ・福祉事業所の提案等もボランティア体験に含まれるということを理解してほしい。
- ・地域の研修ニーズの把握が重要という意味で盛り込んである。
- ・ハラスメントについて、人材育成がハラスメント防止に繋がっており、人材育成が重要というのがわかる表現にしてほしい。
- ・ハラスメント防止では、利用者及び支援者としての立場の関係性の脆さがある
- ・「利用者や家族等による」という書き方であると、限定されてしまう可能性があるなので、文言を検討してほしい。

○用語解説について

- ・用語解説について、あゆみ、きぼうについて、内容を重要視すべきなので、「市が業務委託する」という表現を最後に持ってきてほしい。
- ・「いせ若者サポートステーション」が「就業」が抜けているので、修正してほしい。

(2) 各重点テーマにおける協議について

事務局より、重点テーマのメンバー構成・検討課題等について説明

- テーマについては、障がい福祉計画との連携性もあるため、委員の皆様と協力して、ZOOMやWebでの開催等をしていく。

(委員からの意見等)

○人材確保・養成テーマ

- ・開催予定については、今年度の実施予定はあと2回。
- ・検討課題が多いので優先順位を決めて、メンバー構成を検討していく必要がある。

○医療的ケア児者支援テーマ

- ・喀痰吸引研修のように子育てハンドブックや福祉用具のリユースについても形にして残していけるように努める。
- ・見える輪ネットとの関係を深めていく。
- ・今年度の開催予定については、有資格者の参加も検討している。

○就労支援テーマ

- ・リーフレットが2月頃には完成予定であるが、ほぼ完成しているので、優先度は一番高い。
- ・関係機関による連携体制の構築についても、リーフレットをもとに検討していく。
- ・アセスメントについて、バラバラな部分があるので、共通認識として、周知したい。
- ・農福だけでなく、水福の連携もあるという認識でよろしいか。
→お見込のとおり。
- ・開催予定については、今年度にもう1回実施したい。

○地域生活支援拠点テーマ

- ・拠点事業について、本格的な始動をしていく。
- ・登録事業者及び利用者の増加、拠点事業の検証について改善提案をしていく。
- ・体験機能についても検討していく。
- ・利用者家族に説明する機会があったが、理解度としては低かったので周知、啓発をできるといい。
- ・登録事業者が増加しない理由等を検討していきたい。

○こどもテーマ

- ・検討会議の整理をし、優先度と重要度、実施における現実性を再検討して議論していきたい。
- ・開催予定については年間2回程度の開催予定。

※全テーマ共通

- ・メンバー固定ではない。
- ・開催時には部会委員にも明記し周知するようにする。
- ・当事者や家族の参加も検討していく必要がある。

その他 事務局より

- ・企業より作業があるのでできないかと話があったので、協議できる場があればいいという話も合ったので、後日周知し、参集したい。
- ・事業所間の連携も含め、関係を深める場の提供をしていきたい。

(3) 年間計画

事務局より、年間計画について説明。

以上、(1)～(3)の提案等について承認された。

